

県立守谷高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 生徒、教師、保護者、みんなが主人公として学び合う学校 2 「学び」の楽しさを実感できる学校 3 志を育み、高い進路目標をかなえられる学校 4 来て良かったと、心の底から喜ぶことのできる学校(「弟、妹、わが子を行かせたい学校」)			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
「文武両道」を掲げ、学習指導の充実と部活動の活性化を目指してきた。部活動においては一定の成果をあげているが、まだ中途転退学者数や学力低下による成績不振者数も少なくない。またコミュニケーション能力の欠如により対人関係を築けない生徒も多くなっている。	学力を向上させる	授業で一人残らず学びに参加させる。	3	
		全教員が年1回、授業を公開、検討会を実施し、授業改革を図る。	4	
		中途転退学者数、成績不振者数を減少させる。	2	
	学校行事・部活動を活性化させる	生徒会を中心とした生徒主体の企画運営を図り、学校行事を生徒の手で行えるようにする。	4	
		部活動実質活動率を向上させる。	4	
	規範意識を高め、自治自律の精神を育む	遅刻指導や服装指導の徹底により基本的な生活習慣を身につけさせ、日々の生活を通して社会性や規範意識を育む。	3	
		遅刻者数を減少させる。	2	
	キャリア教育を推進する	進路意識を高め、早期に進路目標を明確にする。	3	
	卒業時に就職内定率100%を維持する。	4		
保護者・地域住民との連携を強化させる	PTA活動を活性化させる。	3		
	保護者・地域住民等の声を学校経営に反映する。	3		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	授業の質を高める。	年間学習指導計画書を作成し、計画性のある授業を実施する。	4	生徒が一層「学び」に参加しやすい授業を工夫する。また、授業検討会の設定や方法を改善し、質の向上を図る。
		授業研究委員会を組織し、授業の公開や研修会を通してより良い授業を模索する。	4	
		授業研究委員会の計画の下、他校の授業を見学し、授業の改善に役立てる。	5	
	生徒の学習に取り組む姿勢を身につけさせ、学習意欲を高める。	授業に取り組む基本的な生活習慣を確立させる。	4	
		学習意欲の低い生徒に対して、意欲の向上につながる授業の方策を探る。	4	
		学力の低い生徒の指導として、定期考査前に成績不振者補講を行う。	4	
		習熟度を十分考慮して学習指導を行う。特に1年の数学では少人数編成の習熟度別授業を実施する。	5	
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力を高める。	4	漢字力を高めるために実施する漢字検定の受験者数を増やし、合格率を上げる指導が必要である。また、古典(漢文)指導における学習困難な生徒に対しての、習得向上を目指す指導方法も検討していく必要がある。
	表現力の向上に努める。	創作(詩・短歌・俳句)の指導をする。	3	
		小論文模試を活用し、事前指導も含めて指導する。	3	
	生徒の実情に合った授業の確立に努める。	校内で研究授業を行い、科内で協議する。	4	
科 地歴・ 公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させる。	4	作業的学習やグループ学習、グループ討論を通じ、生徒の学習意欲をより高めたい。また、課外を実施し、進学を希望する生徒に対応していきたい。
		教材を精選し、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導の工夫をする。	3	
	作業的・体験的活動を充実させる。	新聞・テレビなどのマスメディアや写真・ビデオなどの視聴覚教材を有効活用する。	3	
		白地図やプリント・整理ノートなどを活用し理解度を深める。	3	
	社会的事象への関心と探究心を引き出す授業を展開する。	問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定する。	3	
	社会問題に対して自ら考え、解決の方法および自己意思の確立を導き出す力を引き出すために、身近な事象に積極的に触れるよう努める。	4		

※評価基準： 5:非常によくできた、4:よくできた、3:普通、2:あまりよくできなかった、1:できなかった

数 学	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に合わせて各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新単元へのスムーズな取り組みを促す。	4	3.7	基礎基本の確認が多いので、数学の得意な生徒は時間をもてあましてしまう場合があるので課題設定を今以上に慎重にする必要がある。		
		生徒の実態に合わせて各授業の導入時に前時の復習をし、毎回の授業への取り組みを促す。	4				
		学習内容の定着のため反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気付くよう促し、問題解決の手助けをする。	5				
		小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を取る。	3				
	家庭学習習慣の定着に努める。	ワークノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。	3		提出物に対する意識が少しずつ高くなってきている。		
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。	4		科の中での情報交換がとて も上手いっている。		
		各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	3				
	理 科	基礎学力の定着を図る。	小テストの実施及びノート点検、プリント点検を定期的に行い、学力の定着を確認する。		5	4.0	進路課外としての位置づけでは人数は限定され、時間の経過とともになくなるしかない。放課後を利用した会議や進路指導が多いため時間の確保ができない。
			3年生対象に課外を実施する。		3		
		実験観察等を通して科学的に探究する能力と態度を育成する。	観察・実験を実施し、報告書を作成させる。		4	3.3	研修会には至っていないが、科目によって担当者同士が連携を図り授業・実験を行った。時間の関係上研修会の機会を取るの難しいので何か別の形で対応したい。
観察・実験の報告書や授業プリント等を保存させ、復習や考査に役立てさせる。			4				
生徒が理解しやすい授業・実験等の作成に向けて研修会を行う。			2				
保 健 体 育		基礎体力の向上を図る。	スポーツテストを実施し、運動能力を把握する。	4	3.5	生徒の質も変わってきているので、多様な生徒に対応するため、教員の指導の工夫が必要である。今後体育館に大型の視聴覚機材が導入されるということなので、活用しながら学習指導をしていきたい。	
	縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。		4				
	健康的な生活を明るく前向きに展開する。	自分自身の成長・発達をしっかりと受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。	3				
		生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。	3				
芸 術 音 楽	音楽の基礎的知識を身につける。	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結び付けながら具体的に理解できるよう工夫する。	4	3.4	学年によって授業に対する積極性が異なってしまった。生徒の状況に応じて、課題の達成レベルを考慮する必要があると感じた。今後は、評価方法をさらに工夫していきたい。		
		協力して音楽を創り、表現することの楽しさや達成感を実感させる。	3				
	音楽作品の鑑賞能力を高める。	発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を体験させる。	4				
		各月1時間鑑賞の時間を設け、音楽作品を聴くことが身近なことになるよう工夫する。	3				
芸 術 書 道	授業を充実させる。	アンサンブル発表会を通して、演奏を聴くマナーを身につけさせる。	3	3.3	授業に取り組んでいる生徒とそうでない生徒との差が開いた。授業に雰囲気、ルールづくりに心がけたい。変体仮名など高度な教材は順を追ってわかりやすい指導の工夫をしたい。作品干渉の機会を増やしたい。		
		教科会を開き、指導事項などの確認をする。	3				
	表現力指導の充実を図る。	書道展などに出品することにより研修を深め、生徒に指導を通じて還元する。	4				
		臨書と創作の指導に努め、対外的に発表する機会も設け、技法を身につけさせる。	3				
鑑賞力指導の充実を図る。	作品を鑑賞させ、ノートに説明事項や感想を書かせ、知識を身につけさせる。	3					

※評価基準： 5:非常によくできた、4:よくできた、3:普通、2:あまりよくできなかった、1:できなかった

英 語	基礎学力の向上を図る。	ノート、プリント提出等の指導を徹底して行う。	4	3.7	より授業の質を高めるために、教員間で工夫・改善を行う。また、英検受検者及び合格者の一層の増加を目指す。今年度は、オーラルルームの充実に努めた。
		授業終了後に指導内容を点検し、気づいた点を記録し次の授業の改善に生かす。	3		
		各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	3		
	英語検定において上級位の受験者、合格者の増加を図る。	進路を意識させ、英検の重要性を周知させる。	4		
		一次試験・二次試験とともに、受験者には特別講座を設定し指導をする。	4		
	オーラル・コミュニケーションの授業の充実を図る。	オーラル・コミュニケーションⅠの少人数編成授業の展開、反省項目について意見交換を行う。	4		
		ALTを交えて教員相互の授業研究、公開授業を行う。	3		
		海外のポスター等を飾りオーラルルームを充実させ、海外の事物に興味を持たせる。	4		
	国内語学研修の参加者の増加を図る。	ALTを活用することによって、英語で話すこと・理解することの喜びを感じさせる。	4		
		語学研修の成果について積極的に周知理解させ、参加者を募る。	4		
教 科 家 庭	家庭に関する基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	学習プリントを作成し、実生活と結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。	4	4.0	身につけた知識・技術を実践につなげていけるよう指導する。
		家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。	4		
	技術の個人差の大きな被服製作の実習においては、個別指導の充実をはかる。	5			
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる。	4			
	授業で学習したことを生かし、ホームプロジェクトを実施する。	4			
授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる。	定期的な課題を点検し、提出物の充実をはかる。	3			
情 報	情報活用能力の育成を図る。	身近な情報の整理を通し、活用方法を考える。	5	3.8	情報処理能力を高めるため、ワープロ検定の受験者を増やし、合格率を上げる指導をする。
		情報発信能力の向上を図る。	3		
	情報モラルの育成を図る。	啓発課題を通し、モラルの向上を図る。	4		
	IT能力の向上を図る。	HP作成を通し、実践能力の向上を図る。	3		

※評価基準： 5:非常によくできた, 4:よくできた, 3:普通, 2:あまりよくできなかった, 1:できなかった